自民が島根全区独占

島根選挙区開票結果

1　区　（12日1時24分、選管最終）

当125,401票	細田	博之	61	自前
59,334票	浜口	和久	36	民新
12,786票	上代	善雄	51	共新
9,675票	加納	克己	61	社新

2　区　（11日23時57分、選管最終）

当127,118票	竹下	亘	58	自前
72,098票	亀井	久興	65	国前
34,999票	小室	寿明	44	民新
10,704票	向瀬	慎一	34	共新

2区　当選者　1区

竹下　亘（自民、前　無公明）

前衆院環境委員会理事、党国対副委員長。1969年NHKに入り、経済ニュースキャスターなどを経て85年退社。兄の竹下登元首相の秘書を務め、2000年衆院選で初当選。慶大経済学部卒。雲南市掛合町出身。東京都世田谷区下馬。当選3回。58歳。

細田　博之（自民、前　無公明）

内閣官房長官。1967年通産省入り。退職後、父の細田吉蔵元運輸相の秘書を経て、90年に衆院初当選。通産省総括政務次官、党総務局長、沖縄・北方対策科学技術担当相、内閣官房副長官などを務めた。東京大法学部卒。松江市堂形町。当選6回。61歳。

圧勝で3選を果たし花束を高々と上げる竹下亘氏＝11日午後8時20分、出雲市姫原2丁目の選挙事務所

2　区

竹下氏分裂選制す

亀井氏に5万5000票差

小泉構造改革の是非を争点にした第四十四回衆院選は十一日投開票され、島根県は二つの小選挙区で自民が議席を独占した。1区は官房長官を務める自民前職の細田博之氏が、民主新人の浜口和久氏、共産新人の上代善雄氏、社民新人の加納克己氏を突き放して六選。保守分裂となった2区では自民前職の竹下亘氏が、自民を離党した国民前職の亀井久興氏と、民主新人の小室寿明氏、共産新人の向瀬慎一氏を下し三選を果たした。自民が厚い保守地盤を背景に、郵政民営化の是非をめぐる支持団体の離反などを、結束力に転化して、底力を見せつけた。政権交代を訴えた民主は、都市と地方の双方で吹いた自民への追い風にさらされ、支持を伸ばせず惨敗。共産、社民も埋没する厳しい結果となった。投票率は75・81％で、前回を5・15ポイント上回った。

自民・後援会組織をまとめた竹下亘氏が、牙城の出雲部で手堅く票を伸ばし、郵政民営化問題で自民を離党し新党から出馬した亀井久興氏らの追撃をかわして、保守分裂選挙を制した。

竹下氏が兄の故・竹下登元首相から引き継いだ「王国」の厚い地盤は、亀井氏の離党の引き金にもなった郵政問題をめぐって大きく揺れ、解散直後は組織内部に少なからず亀裂が走った。

さらに民営化法案に反対するとの印象を与え続けた竹下氏が賛成に回ったことに対して、支持者から批判の声が上がった。潜在的な構造改革路線への反発とも重なり、不満は市町村議や建設業界などへ広がった。

陣営が当初抱いた懸念は、集会を重ねて、法案修正による郵便局ネットワーク維持の主張でぬぐい去った。「王国の「遺産」といえる自民・後援会も、危機感を背景に選挙戦に入ってからは本来の組織力を発揮した。

青木幹雄党県連会長も公示から三日間選挙区に張り付いて、演説や地元有力者の説得に奔走。前回の十四万五千票には及ばなかったものの、保守分裂の中で目減りを最小限にとどめ、亀井氏に約五万五千票差をつけた。

亀井氏は、新党結成の準備による出遅れが最後まで響いた。ただ、比例転出後に離散状態だった後援会が機能。反小泉層を引き込み、政治生命を懸けた戦いへの「同情票」も集めて、出身地の鹿足郡では竹下氏と互角以上に渡り合ったが、出雲部で浸透しきれなかった。

小室寿明氏は、保守分裂の間げきを突く狙いで解散直後に出馬表明したが、知名度不足が尾を引いた。労組の動きは最後まで鈍く、保守同士の激戦に埋没。石見部では亀井氏に支持層を切り崩された。

向瀬慎一氏は二度目の挑戦で、増税反対や「たしかな野党」の必要性を訴えたが、二大政党化の中で支持を広げられなかった。

1　区

細田氏余裕の6選

前回上回る12万票台

細田博之氏が官房長官での知名度と厚い保守地盤に支えられ、全十市町村で完勝した。有権者の半数以上を占める大票田・松江市で支持を広げ、得票率60・5％で前回に続いて大台に乗せ、盤石の強さをみせた。

県議や市町村議で固めた陣営は「官房長官にふさわしい得票」を合言葉に支持を訴え、本人の地元入りが二日間の不在選挙も、内閣のスポークスマンとして群を抜く知名度でカバーした。

小泉純一郎首相の補佐役として改革イメージを打ち出し、前々回までは票が伸び悩んだ。

二度目の挑戦となる浜口和久氏は、郵政民営化法案への反対姿勢を鮮明にするなど地方切り捨ての危機感をあおって小泉政権を徹底批判。政権交代の必要性を訴えたが、頼みの無党派層が掘り起こせず、天王山の松江市で完敗した。

基盤の労働組合も自治労県本部の不祥事の影響や憲法問題をめぐる路線の不一致から動きが鈍く、ライフワークの竹島問題の主張も保守層への食い込みには十分に結び付かなかった。

上代善雄氏は増税と憲法改定反対で野党の必要性をアピールし、加納克己氏も護憲と格差是正で党の独自性を前面に出したが、ともに自民、民主の二大政党の競い合いに埋没。票を伸ばせなかった。

当選確実の知らせを受け、安倍晋三自民党幹事長代理と喜びを共にする細田博之官房長官㊨＝11日午後8時20分、東京・平河町の自民党本部

鳥取

1区 石破氏　2区 赤沢氏

鳥取県は二つの選挙区とも午後十一時までに当落が判明、自民が二議席を独占した。

鳥取1区は、自民前職の石破茂氏(48)が強固な後援会組織と抜群の知名度を生かし、初対決となった民主党候補で新人の早川周作氏(28)、社民新人の田中清一氏(52)、共産新人の塚田成幸氏(41)を圧倒、七回目の当選を果たした。

石破氏は、保守地盤に広がる「地方切り捨て」との反小泉感情に「自分が一番、鳥取を知っている」と理解を求め、支持をつなぎ留めた。前回の十一万四千票に届かなかったが、陣営が最低目標とした十万票は超えた。

郵政対決、保守分裂と今回選挙を象徴する構図になった鳥取2区は、自民新人の赤沢亮正氏(44)が六万票を超す得票で無所属前職の川上義博氏(54)を引き離し、初当選した。民主前職の山内功氏(50)は前回衆院選より大幅に票を減らし比例復活もならなかった。共産新人の鷲見節夫氏(60)も及ばなかった。

赤沢氏は、郵政法案賛成派の受け皿として改革派を訴えたほか、若さへの期待感から保守層の支持を集めた。元自治相の祖父の地元・米子市に待望論があったことも出遅れのハンディを埋めた。

投票率は1区70・89％、2区75・07％で、前回選を6・66ポイント、5・07ポイントそれぞれ上回った。

2区　鳥取選挙区当選者　1区

石破　茂（自民前　無公明）

前防衛庁長官。銀行員を経て、1986年の衆院選で初当選。農林水産政務次官、防衛庁副長官などを歴任。慶応大法学部卒。鳥取市上町。当選7回。48歳。

赤沢　亮正（自民新　無公明）

元日本郵政公社事業開発部長。1984年に旧運輸省入省。国交省官房総務課企画官などを歴任。04年公出馬。東京ノ大法学部卒。米子市日出町1丁目。当選1回。44歳。

鳥取選挙区開票結果

1　区　（12日0時18分、選管最終）

当106,805票	石破	茂	48	自前
48,092票	早川	周作	28	民新
14,271票	田中	清一	52	社新
11,105票	塚田	成幸	41	共新

2　区　（11日23時30分、選管最終）

当 64,132票	赤沢	亮正	44	自新
58,909票	川上	義博	54	無前
41,533票	山内	功	50	民前
6,711票	鷲見	節夫	60	共新

テレビ欄は9面

昔ながらの源泉かけ流しの宿
心も体も癒される名湯ともてなしの宿
温泉三昧プラン
〈二名様より承ります。〉
秋桜（こすもす）
◆お一人様〈サ込・税込〉
一一、五五〇円
一泊二食付
紅葉（もみじ）
◆お一人様〈サ込・税込〉
一四、七〇〇円
◎女性の方に
色浴衣無料貸出サービス
一泊二食付
※温泉三昧プランは休前日お一人様三一五〇円増、大人入湯税一五〇円別途
秋の宵、旬を楽しむ
秋の夕食会
◆お一人様〈サ込・税込〉
五、二五〇円
※平日限定、二名様より承ります。お食事はお食事処「たまゆら」
おとな流、午後から温泉へ
秋の昼食会
◆お一人様〈サ込・税込〉
三、一五〇円
※平日限定、二名様より承ります。お食事はお食事処「たまゆら」客室の場合、お一人様二一〇〇円増
送迎のご相談承ります
湯陣 千代の湯
玉造温泉 ☎0852・62・0124
■1300年の湯・玉造温泉